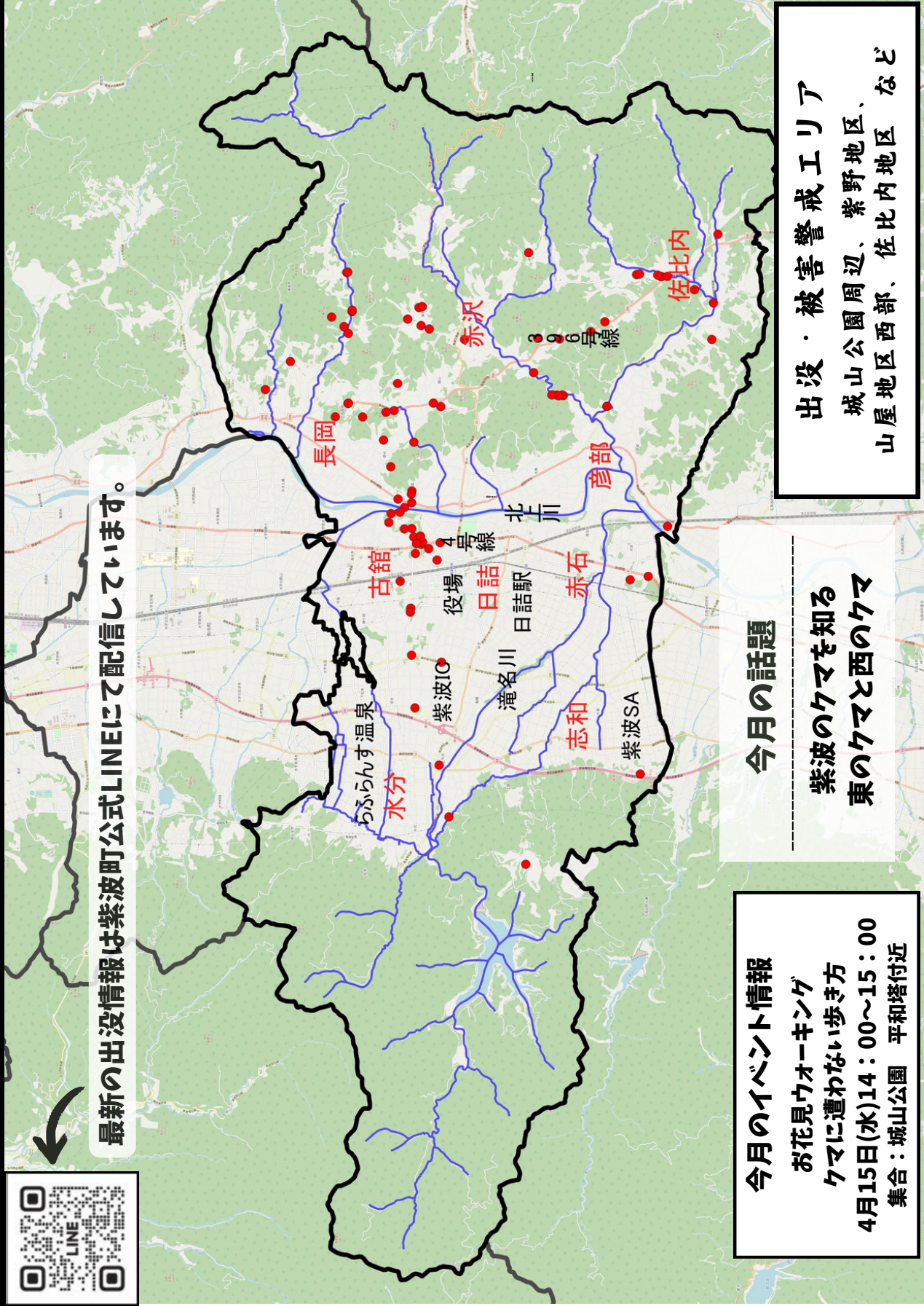


発行日 令和8年4月6日

紫波町におけるR1～R7年のクマ出没情報（4月）



最新の出没情報は紫波町公式LINEにて配信しています。



今月のイベント情報

お花見ウオーキング
クマに遭わない歩き方
4月15日(水)14:00～15:00
集合：城山公園 平和塔付近

今月の話題

紫波のクマを知る
東のクマと西のクマ

出沒・被害警戒エリア
城山公園周辺、紫野地区、
山屋地区西部、佐比内地区 など

紫波クマ通信

13号

発行

2026年4月6日

紫波町環境課
地域おこし協力隊
近藤雄太

4月のクマ情報

例年、4月頃になると冬眠から目を覚ましたクマが一斉に動き始めます。本年はすでに全国各地でクマの目撃情報があり（紫波町内では3月に佐比内地区で出没を確認）、紫波町内でもこれから目撃情報が増加していくことでしょう。

ここ数年で城山公園へのクマの出没時期が早まってきている傾向にあり、昨年4月から目撃情報が寄せられ、センサーカメラでもその姿が確認されました。城山公園へは東側から北上川を渡ってくるクマだけではなく、西側から北七久保周辺の住宅付近を通り抜けてやってくるクマがいることも確認されています。城山公園周辺以外でも遭遇する可能性は十分にあり、町の公式LINEなどでクマの出没情報の確認することが被害防止のためにも有効です。

また、春先のクマは農地や森林にエサが少ないこともあり、保管されている米やリンゴなどを狙って小屋や人家などに侵入をするケースが多くあります。米やリンゴを保管する場所は鍵のかかるようなクマが入れない環境にしておくようお願いいたします。クマは一度餌を食べた場所には何度もやって来るようになるため、クマの被害を受ける前に対策をとることが何よりも重要です。

万が一保管している米などが荒らされていたたり、小屋などから聞きなれない物音がするようであれば、安全のためにも自分だけで確認をしようとしたりせず、役場環境課まで連絡をいただければ幸いです。



水芭蕉はクマのお薬

水芭蕉（ミズバショウ）は日本人なら誰もが知っているような花が印象的な植物だ。そんな水芭蕉をクマが食べるということはあまり知られていないのではないだろうか。

きれいな白い花を咲かせることで知られている水芭蕉だが、実は葉っぱや茎に有毒成分を含んでいる。この有毒成分はシユウ酸カルシウムというもので、嘔吐や下痢を引き起こすことで知られており、脈拍低下をすることもあるため摂取量によっては最悪に至ることもある危険な成分だ。

なぜ、クマはこんな危険な植物を食べるのかと疑問に思う人もいるかもしれない。だが、その有毒成分が冬眠明けのクマにとって大切な下剤の役割を果たす。クマは冬眠中排便を行わないため、冬眠明けに硬くなってしまう排便を排出する目的で水芭蕉を採食するのだ。

現代では考えられないが、水芭蕉は昔の日本でも便秘薬として利用されていたことがあったという。

きれいな花には棘があるとはよく言うが、その棘さえも利用してしまうクマは本当にたくましい生き物だ。



今月の話題

紫波のクマを知る 東のクマと西のクマ

実は紫波町には2種類のクマが生息している。2種類とはいってもヒグマとかホッキョクグマといった生物的な種の話ではなく、生息域の話だ。

1種類目は北上山地地域個体群と呼称されるツキノワグマで、紫波町の東側、北上山地に生息している（以降、東のクマと呼ぶ）。

2種類目は北奥羽地域個体群と呼称されるツキノワグマで、紫波町の西側、奥羽山脈に生息しており、秋田県に出没するクマと同じ種類でもある（以降、西のクマと呼ぶ）。

この2種類のクマは同じツキノワグマであるのだが、遺伝子的に多少の差異はあるとされており、パッと見てわかるものではないが顔つきなどにも違いがみられるともされている。

また、その行動様式にも違いがみられ、東のクマは山伝いに移動することが多く、道路上を横断する際に目撃をされることも多いが、西のクマは滝名川などの河川や水路を移動することが多く、市街地周辺での出没も確認されることが少な

い。この2種は食性にも違いがみられる。東のクマはブドウやリンゴなどの果樹を好んで採食し、西のクマはキュウリや家畜用飼料を好んで採食する傾向がある。また、近年よく話に聞く柿を食べるクマはどちらかというと西のクマに多い。東のクマも西のクマも米やトウモロコシなどの穀類は好んで採食することがわかって

いる。とはいえ、これはあくまで紫波町の地形的、環境的要因に起因している可能性が高く、ほかの地域でも同じような傾向がみられるというわけではないという点については留意して

いただきたい。

